

平成31年度 事業報告書

大慈ショートステイさくら

1. <基本方針>

法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」に基づき、ゲストの人権を尊重し、ご自分らしく心豊かに生活を送っていただけることを目指し努力する。いつでも笑顔を絶やさず、思いやり・真心をこめて接することでゲストとの心のつながりを大切にする。ゲストが安全で健康的な暮らしができるようサポートする。

2. <最終目標>

いきいきのびのびスマイリー運動

みんなが生き生き・みんなが伸び伸び・みんなが笑顔

(みんなとは、ゲスト・ご家族・職員を指します)

- ・生きがい・やりがいを大切にします
- ・自分らしさを大切にします
- ・自然と笑顔溢れる温かい雰囲気を大切にします
- ・みんながしあわせになることを目指します

3. 重点目標

●<経営部門>

①システムを構築、見直し

②ゲストのニーズを把握し、繰り返しの利用につなげ充足率70%へ押し上げを図る

③新規利用者開拓のため、あんしんすこやかセンターや居宅を回る。併せて空き状況を FAX にて知らせることを定期的を実施する

●<まとめ>

今年度、キャンセルが出たこともあり、70%の目標は達成できなかったが、下半期から充足率70%以上の目標が見えてきた。今年度、徐々にリピーターを増やし、ロングを入れることで少しずつ安定するようになった。しかし、キャンセルが出た場合の補充の対応ができていないことが挙げられ、次年度の課題として残る。今年度、ケアマネジャーやご家族との情報共有、スタッフとの連携を取っていったことでリピーターに繋がっていった。ショートの人員配置に関しては落ち着いていたと思われる。ロングで認知症のゲストの周辺症状に対応することが難しいケースもあったが、情報共有、人員を安定させることで落ち着いて対応することができた。居宅と病院等への営業活動を年明けからコロナ感染拡大の予兆あり、活動を一時停止している。落ち着き次第、定期的に戻っていききたい。

●<ケア部門>

①「遠藤メソッド」の推進

②余暇活動の充実

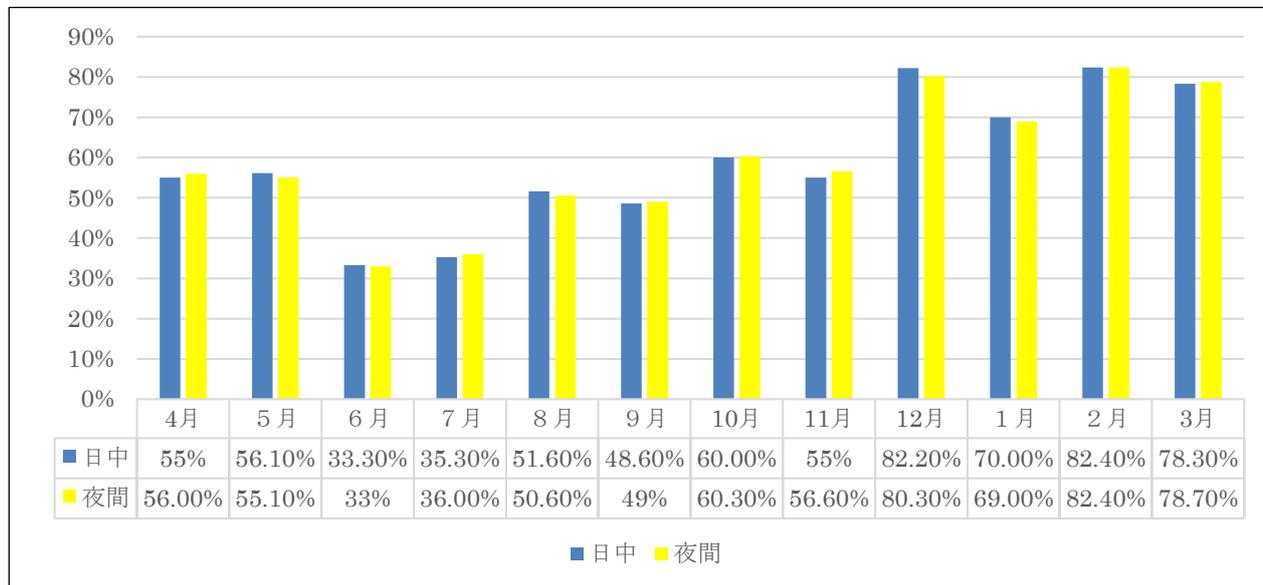
③チーム力強化

●<まとめ>

ショートの人員配置はできていたが、ケアハウス全体で見ると正規職員が研修に参加できない状況もあり、遠藤メソッドの取り組みが思うように進められなかった。人財確保しメソ

ッドの取り組みができる環境整備が必要である。余暇活動ではショートゲストにもケアハウス大慈と同じように行事食含めた行事ができたことが良かった。その他、日替わり体操は毎日取り入れたが、ゲストのニーズなどに対応するレクリエーションまではゆとりがなかった。次年度は、散歩・ゲーム等も取り入れ、施設での余暇活動を楽しめるようにしていきたい。

●＜充足率＞



- 4. 《栄養科》
 - 5. 《看護部》
 - 6. 《理学療法科》
- } ケアハウス大慈に準ずる

7. 《リスクマネジメント報告》

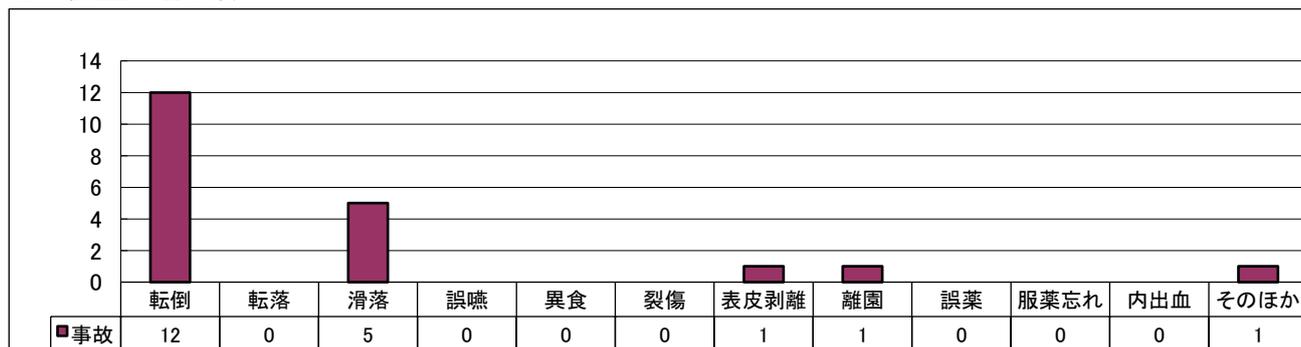
☆事故の定義・・・膝が地面に接地した時点で事故とみなす。

＜報告件数＞

●＜報告件数＞

	平成30年度	平成31年度
事故件数	8件	20件

●＜発生内容別件＞



●<まとめ>

前年度に比べるとショートステイを利用される方の性格や行動等の理解が深まっており、安全で住みやすい環境を提供できるように努めているが、依然、事故は防ぎ切れていない。ドキドキでは「無断外出の恐れ」が最も多かった。引き続き、ご本人はもちろん、ご家族・担当ケアマネジャーからの情報収集を密に行い、安全・安心な環境を整えていけるように取り組んでいく。

9. <<苦情・相談結果報告>>

苦情の定義・・・施設長が直接対応した件を苦情とする

●<報告件数>

平成 30 年度				平成 31 年度			
報告 件数	合計件数	苦情	相談	報告 件数	合計件数	苦情	相談
	1	0	1		2	0	2

●<まとめ>

部屋の鍵がスムーズに掛けられない、転倒事故の際、ご家族に連絡を入れたが繋がらず、病院で運転手からご家族へ報告したことへの不満等、2 件の相談があった。ケアマネジャー・ご家族への連絡・調整は確実にやっていくようにしていきたい。

10. <<職員配置>>

施設長	副施設長	生活相談員	看護職員 (パート)	管理栄養士
1 名	1 名	1 名	4 (2) 名	2 名
事務員	介護職員 (正職)	介護職員 (パート)	機能回復 訓練士	運転手
2 名	8 名	1 名	1 名	2 名

11. <<総括>>

今年度も多くの課題はあったものの、月を追うごとに徐々に充足率は上がってきた。リピーターを増やしロングショートを半数入れていくことで次年度は90%以上を目指し、尚且つ、入居に繋がられるようにしていきたい。また、居宅との連携をしっかりと取り定期利用の枠を拡げること、緊急時に臨機応変に対応できるような体制作り、キャンセルなどに対しても居宅と気軽に連絡が取れるような関係を構築していく必要がある。ケア部門ではケアハウス大慈同様、正規職員を確保し、安定したサポートの提供と充実した余暇活動の提供ができるようにしていきたい。